

# 訳者まえがき

2011年あたりからにわかにNodeに注目が集まってきても、なかなか書籍が発行されずWeb上の情報のみを頼りにしなければならない状態でした。しかし、最近になって海外の大手出版社からNodeの書籍が次々と刊行されています。Nodeがバージョン0.4を迎えて現在の形の基礎となり、0.6を経て0.8になったあたりでコアモジュールのAPIが落ち着いてきたため、書籍にしやすくなったのではと推測できます。

公式ドキュメントのAPI Stability Indexによると、0.8.16（2012年12月）の時点でのAPIの安定度は以下のような状況です。

- 5 - Locked : Assertion Testing, Modules, Timers, Utilities
- 4 - API Frozen : Events, OS, STDIO
- 3 - Stable : Buffer, Child Process, Debugger, DNS, File System, HTTP, HTTPS, Net, Path, Query String, String Decoder, TLS, UDP, URL, ZLIB
- 2 - Unstable : Crypto, Punycode, Readline, Stream, TTY, VM
- 1 - Experimental : Cluster, Domain

このうち、0.4（2011年2月リリース）に存在しなかったコアモジュールはCluster、Domain、Punycodeの3つだけです。その他の各コアモジュールにも内容が大きく変わっているものがいくつか存在しますが、0.6を経て0.8に至りAPIが安定してきているため、Nodeもこれからは成熟しつつあるプラットフォームとしての認識が少しずつ進むものと考えています。

Nodeコア自体が提供する機能は膨大なものではありません。上記のモジュールを一覧するとわかるように、コアモジュールはサーバアプリケーションやネットワークアプリケーションを構築するために欠かせない基礎機能に絞られています。Webアプリケーションの一般的な仕組みを理解している方であれば、公式マニュアルを1日集中して読めばコアモジュールが提供するほぼすべての機能を理解できるはずです。レゴの基本ブロックが過不足なく揃っていて、小さいものから比較的大きなものまで柔軟に組み立てることができる、という状態と似ているかもしれません。

しかし、基本ブロックだけを使って建造物を構築しようとしても、ほとんどの開発者は基礎から出来上がりまで一貫して自分（たち）だけで組み立てるリソースが不足していると思います。その

ため、すでに市場に出回っているサードパーティのモジュールを組み入れる機会が多くなると思います。

本書では主なサードパーティのモジュールとして、XML パーサやスタティック配信、各データベース接続などの基礎的なものから、socket.io やメール・SMS 送信、パケットキャプチャなどの特殊用途、そして Connect や Express といったすでに広く使われているフレームワークまで、さまざまなシーンで利用するであろうモジュールを広く紹介しています。

ただ、コアモジュールとは違ってサードパーティモジュールの成熟はまだこれからというところで、主要なモジュールでも大きな API の変更がまだまだ発生しています。今回は翻訳期間が Express のメジャーバージョンアップのパブリックベータ公開時期と重なったため、原書では 2.x ベースだった 6 章の本文とサンプルコードを翻訳時に 3.x ベースで書き直しました。

サードパーティモジュールの紹介とともに、自らがモジュールを書いて NPM レポジトリに登録し、サードパーティモジュールとして世に出すためのレシピを 9 章で紹介しています。本書を読んでデビューするモジュール作者が生まれれば嬉しいです。

本書はクックブックという名称を持っていますが、技術図書によくあるタイプの問題点→解答を簡潔にリストしてある形式ではありません。簡潔にリスト化できない複雑な取り組みも行っているため、あるレシピが他のレシピの仕様やコードを引き継いでいることが多くなっています。そのため、実際は各章を大きなレシピと考えた方がよい構成となっています。

「3分クッキング」のように簡潔にまとめられたレシピでそれぞれの料理を作るというよりは、筋道を立てて特定ジャンルの料理方法をじっくり学ぶ、というタイプの料理本です。ダウンロードできるサンプルコードと合わせて、腰をすえて学んでいただけると幸いです。

活発なコミュニティについても触れておきます。Google Groups の Node コミュニティ (<http://groups.google.com/group/nodejs>) など、海外には大小、地方のグループを合わせて数多くの Node コミュニティが存在します。

日本語の情報を求められる方は、ぜひ Node.js 日本ユーザグループ (<http://nodejs.jp>) に参加してみてください。日本ユーザグループは公式ドキュメントの日本語訳や、メーリングリストの運営 ([http://groups.google.co.jp/group/nodejs\\_jp](http://groups.google.co.jp/group/nodejs_jp))、そして Node 学園などオフラインイベントなどの活動をされています。Node.js の日本人コアコミッタも在籍しているので、ディープな質問にも答えていただけると幸いです！

最後に、本書翻訳の機会を与えてくださった株式会社オライリー・ジャパン、および本書のレビューに責任を持って多くの時間を割いてくれた、株式会社プログラミングシステム社の社員の皆さんに感謝します。特に伊藤孝さんと高橋英樹さんには最初から最後までサポートしてもらいました。本当にありがとうございます。

まだ日本語の Node 情報が少ない中、本書が皆様の貴重な情報源になれるように翻訳しました。Node を学ぶ皆様にとって少しでもお役に立てることを祈ります。

2013 年 1 月

和田祐一郎